

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

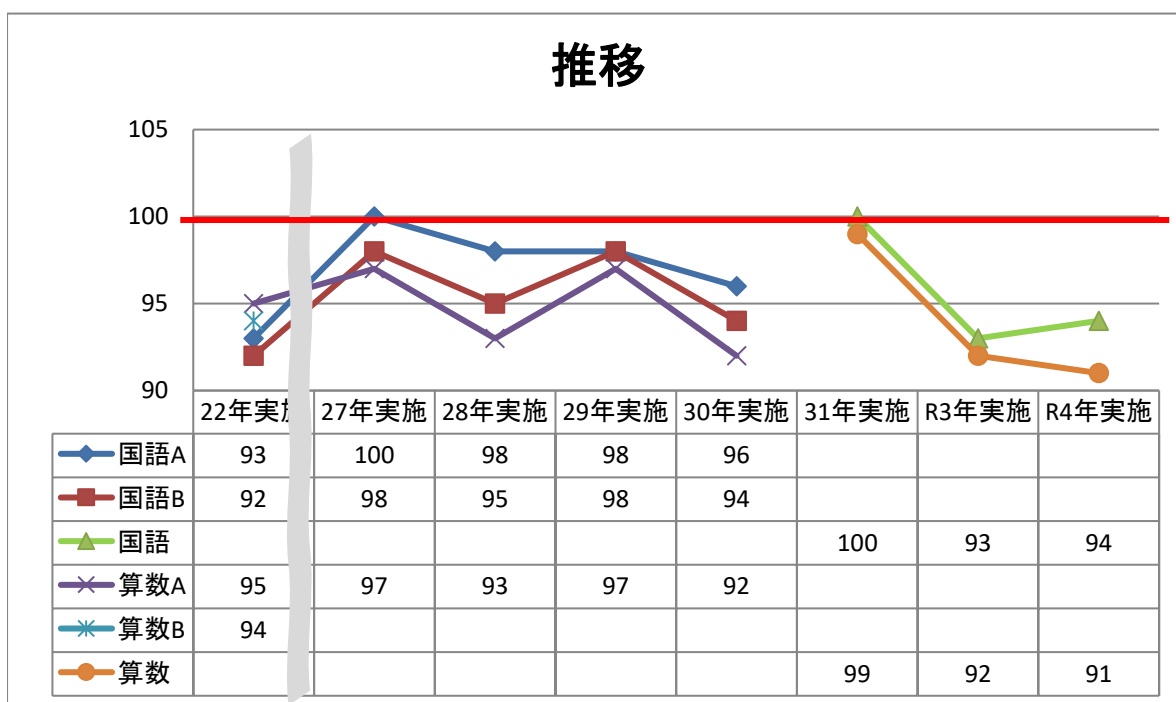
○ 令和4年度の全国学力・学習状況調査において、文科省標準化得点で「国語94、算数92」を上回る。

3.指標に向けての取組

- 校内研における「学習意欲高め、確かな学力を目指す算数科の学習指導」、目的・内容・方法を明確にした書く活動を位置づけ、座席表で確認した取組の日常化。
- 算数における、全学年複数体制授業及び習熟度別指導の実施。(D層中心に支援)
- 国語において、大事な語や文に線や印をつけながら読むこと、文字数制限など条件を提示してかく活動の設定。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	94	91
嘉麻市	98	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

○ 国語科において、短期目標を達成することができた。特に、記述式の問題における無解答率は、県と比較しても大きな差はない。要因は次の二点が考えられる。一つに、自分の考えを図や言葉でかく活動を、授業に位置付けたこと。二つに、算数の授業における、適応問題における形成評価を行い、専科教員を有効に活用して学力の補充を徹底したこと。

○ 国語科において短期目標については達成することができたものの、平均正答率は全国・県を下回っている。特に思考・判断・表現に格差が大きく、そのことがC,D層と一致している。国語科は「書くこと」、算数は「図形、変化と関係」、問題形式は「記述式」については、全国平均との開きが大きい。特に、国語では、「自分の考えをまとめることや文章の構成や書き方など文章を整えることに課題がある。算数では、「目的にあった概数の処理や割合、伴って変わる量」など課題がある。また、前学年までの、既習内容が十分に定着していないことから、基礎基本の定着にさらに努める必要がある。

6.各学校における今後の取り組み

○各教科、めあて、まとめ、ふり返りや自分の考えを書く、かく活動を位置付ける。

○ 「いなひがタイム(未来への一歩)」を活用した、学ぶ意欲や自己肯定感の向上及び基礎基本の定着。

○ 算数の授業の単元において、レディネスを整える時間を設定。

○ 算数における、全学年複数体制授業及び習熟度別指導の実施。(D層中心に支援)

○ 国語において、大事な語や文に線や印をつけながら読むこと、文字数制限など条件を提示してかく活動の設定。【継続】

○ 算数において、図からの立式、公式を使った練習の徹底、前学年までの学習内容の定着。

○ 家庭学習の習慣化を図る、家庭学習強化週間の定期的な実施及び宿題の個別化。(C層D層)

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。